

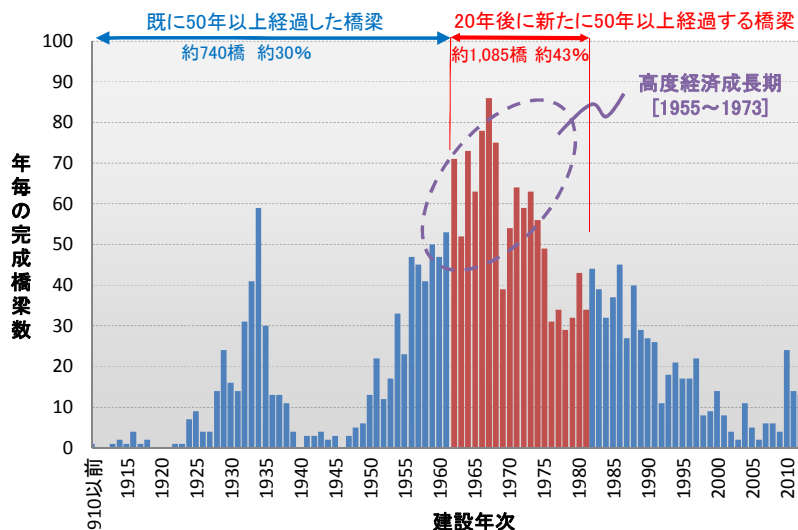
2-2. コスト縮減の必要性

(1) 増大する社会資本ストックの維持管理・更新費への対応

社会保障費など義務的経費が増加する状況下において、高度経済成長期に整備した大量の社会資本ストックの老朽化により維持管理・更新費が増大するため、コスト縮減と予算の平準化が求められています。

これらの課題に対応するため、社会資本ストックの長寿命化計画を導入し、効率的・効果的な維持管理に取り組む必要があります。

例えば、群馬県が管理する橋梁は約 2,500 橋あり、この橋梁の寿命を概ね 50 年とすると、今後の 20 年間で約 1,825 橋(約 73%)が寿命を迎えます。この事態を克服するため、橋梁が比較的健全な状態のうちに「橋梁長寿命化計画」を策定し、定期的な点検と予防的な修繕により更新までの期間を 100 年に延長することで、維持管理・更新費の大幅な縮減を見込んでいます。



図表-19 建設年次別の社会基盤施設の数（橋梁の例）

(2) 新規建設に関するコスト縮減

これまで、様々な創意工夫により、社会資本整備のコスト縮減に取り組んできました。

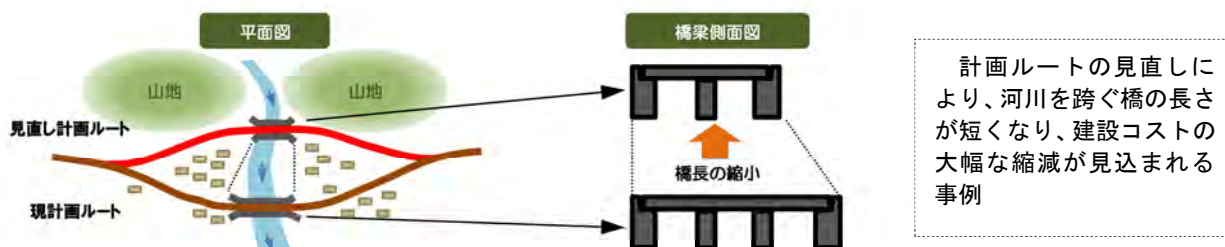
しかしながら、県民に約束した社会資本整備を着実に進めていくためには、少ない予算で必要な整備をする工事コストの低減や、同じ予算でもスピードアップを図る時間的コストの低減などが求められています。

今後は、これまでのコスト縮減の取り組みに加え、例えば道路事業であれば平面・縦断線形や大規模構造物の見直しなど設計段階の徹底した見直しによる一層のコスト縮減の取り組みを推進する必要があります。

これらの取り組みにより新たな投資余力を確保していきます。

分類	具体的な事例
工事コストの低減	・1.5車線道路 ・電線共同溝のコンパクト化 など
ライフサイクルコストの低減	・橋梁長寿命化計画 ・耐候性鋼材の採用 など
社会的コストの低減	・建設発生土の有効利用 ・再生材の利用 など
時間的コストの低減	・橋梁からカルバート構造への変更 ・プレキャスト製品の活用 など
新技術の導入	・橋梁構造の単純化(上部・下部の一体化) ・群馬県型暗渠側溝 など

図表-20 これまでのコスト縮減の取り組みに関する代表事例



図表-21 平面線形の見直しによる大規模構造物のコスト縮減事例

2-3. 投資の選択と集中の必要性

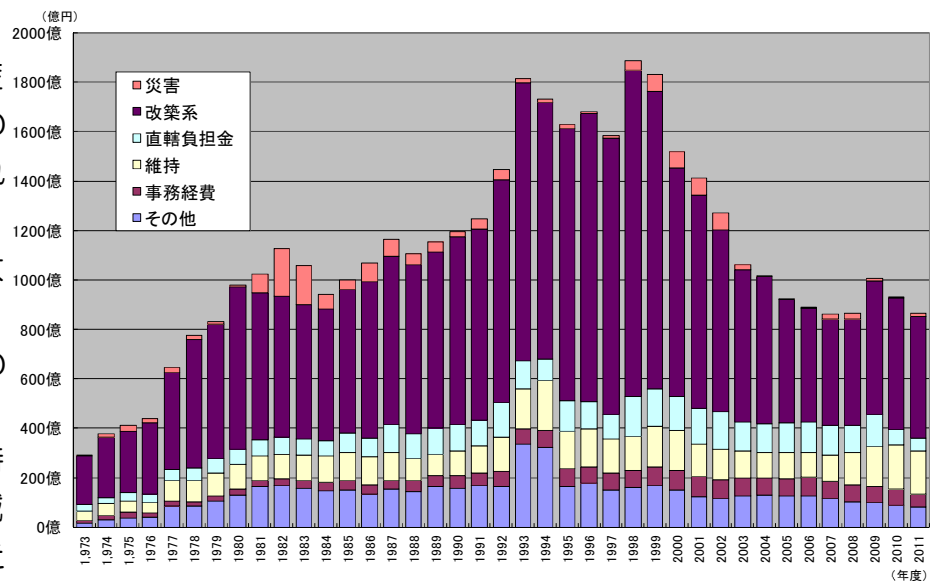
(1) 選択と集中による効率的・効果的な事業の推進

厳しい財政状況と既存ストックの老朽化への対応等、公共投資を取り巻く状況は極めて厳しいことから、限られた予算のもと、早期に目標を達成するため、選択と集中に基づく、効率的・効果的な事業実施が求められています。

また、選択と集中に基づく事業を実施していくためには、どのような分野に重点的かつ戦略的に投資していくかの判断基準となる選択と集中の考え方が必要です。

そこで、本県の今後の社会資本整備における選択と集中の基本的な考え方を次のとおりとし、事業の推進を図ります。

- ① 今、取り組めば、本県産業・経済や地域間競争力のより一層の強化が見込まれるもの
- ② 今、取り組まないと、大規模又は広域的な災害リスクを低減できない恐れのあるもの
- ③ 今、取り組まないと、持続可能なまちづくりや地域づくりの実現に支障をきたす恐れのあるもの



図表-22 県土整備部関連事業の投資額推移（一般会計決算額）

(2) 事業完成年度の公表による民間投資や企業誘致の促進

公共事業は事業化してから完成まで長期間を要することから、主要な事業の完成予定年度を明示し、見える化を図るとともに集中投資することで、沿道利用や開発などを誘導し、その結果、民間投資や企業誘致の促進を図ります。



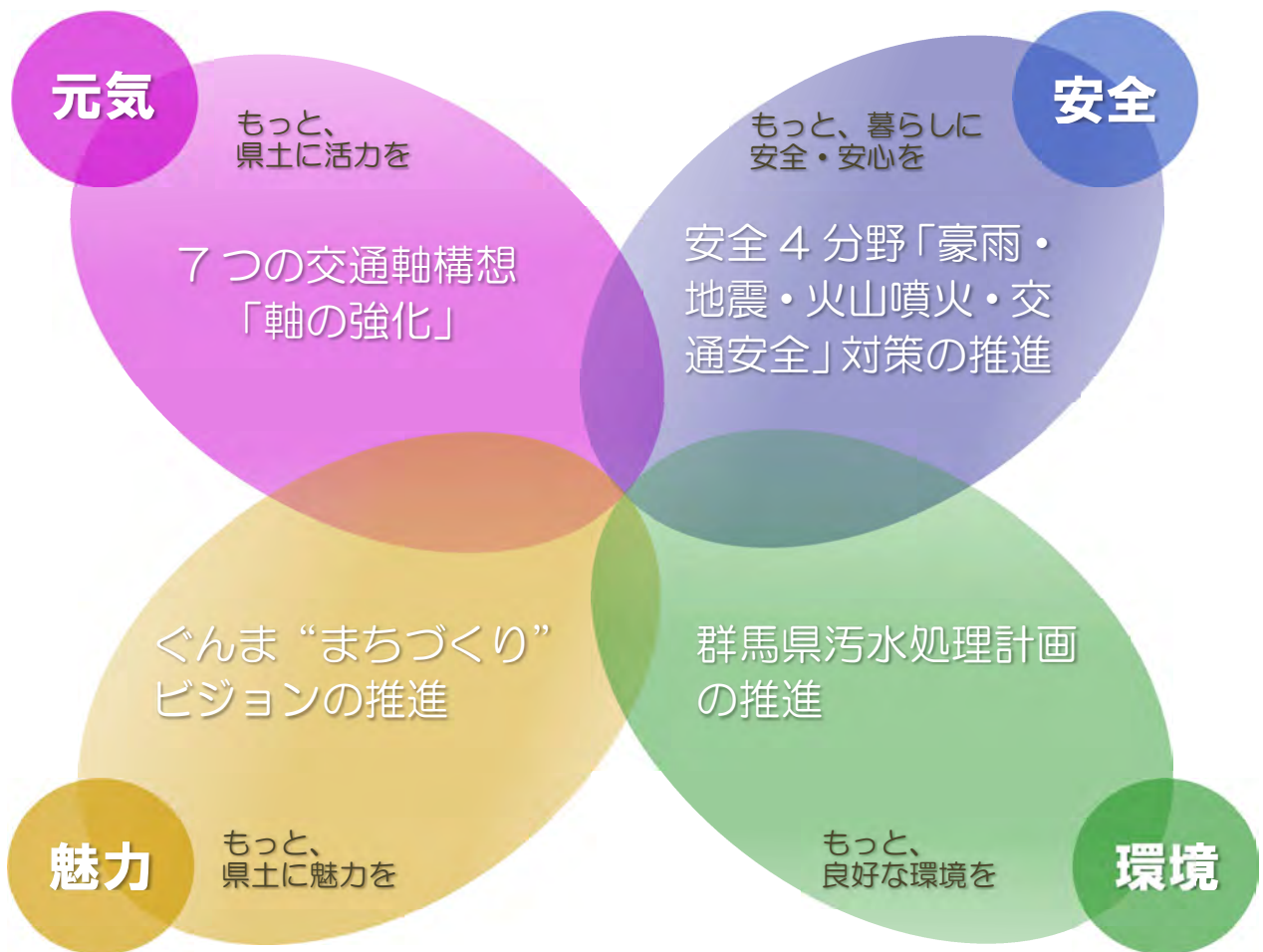
図表-23 主な立地企業の分布状況 (H19～H23)

第3章 目指す将来像と政策方針

3-1. 将来像の実現に向けた取り組みの体系

目指す将来像

自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域



<政策方針>

目指す将来像の達成に向け、これまで講じてきた施策を再構築し、「元気」、「安全」、「魅力」、「環境」の4つの取り組みごとに柱となる政策を掲げます。これらの政策を有機的に連携して、群馬の価値(暮らしやすさ)の向上を目指します。